

IEA 中期石油市場レポートの概要（2016年2月22日公表）

（代表部作成概要。正確には IEA のホームページを参照）

IEA は 2 月 22 日に 2021 年までの今後 5 年間の石油需給の見通しを公表したところ、概要以下のとおり。

- 1 石油の供給と需要の状況について、2014 年と 2015 年にそれぞれ 90 万バレルと 200 万バレル供給が需要を上回ったが、2016 年も 110 万バレル供給が需要を上回ると見込まれる。2017 年によろやく石油の供給と需要が整合することが見込まれるが、蓄積された膨大な石油在庫が石油価格の回復を遅らせると見込まれる。
- 2 2021 年までの石油の需要については、毎年平均 120 万バレル/日の増加が見込まれ、歴史的にも堅調な見通しである。石油需要は 2019 年か 2020 年のある時点で 1 億バレル/日を超えると見込まれる。石油需要増の主要要因は引き続き O E C D 非加盟国のアジア諸国、特に中国である。それは中国の石油需要増とともに戦略備蓄の積み増し（2020 年までに少なくとも 5 億バレルに到達）によるものである。
- 3 見通し期間における精製部門の特徴の一つは、過剰能力である。製品需要は増加しつつあるが、その増加は新設備への投資の増加に見合うものではない。中東が主要な精製センターとしての地位を確立し、製品輸出の伸び率は米国の次に高くなる。
- 4 石油の供給については、米国での生産は、2021 年という今回の見通し期間の終わりには、2015 年に比べて、130 万バレル/日増加すると見込まれる。これまでもこの米国の石油生産の強靱さは驚きであり、今後の見通しに関して幅広い見方がある。また、O P E C の生産については、政治的不透明性のため、見通し期間におけるイランやイラクにおける生産能力の大きな拡大は期待できない。
- 5 低価格は投資に影響を与えており、2015 年に 24%、2016 年に 17% 投資が縮小する見込みである。現在の石油市場においては、サウジアラビアとイラン以外は予備的な生産能力はほとんど無いことから、今後の需要増に見合う投資の前に、現在の生産を維持するためだけでも必要となる投資が相当程度必要である。今回の見通し期間後半に向けた不十分な投資による急激な石油価格上昇のリスクは、急激な石油価格の下落が示したものと同程度の潜在的な不安定化要因である。